



# 湘北短期大学図書館 としょかんNEWS

vol.126

2017.10.31 発行

10月27日(金)～11月9日(木)は、秋の読書週間。そして、今年の標語は「本に恋する季節です!」です。湘北生にも、「本に恋して欲しい!」という想いを込めて、図書館独自に長期読書週間「読書ノートキャンペーン」を実施します。キャンペーン期間もたっぷり、50日。年度末の「読書ノート大賞」を目指して、ぜひ、チャレンジしてください。

## 読書のススメ - ごんな効果も -

本を読んだ後には、読む前にはなかった新しい何かが、頭の中や心の片隅に蓄えられます。本を読むことによって何かを感じたり、考えさせられたりと、読む人の内面を充実させてくれます。

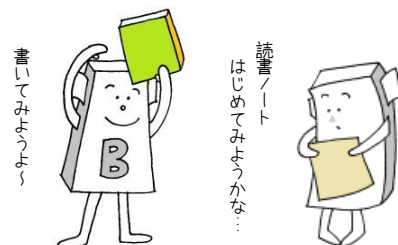


- 実用書やハウツー本を読んで、生活に役立つ情報を得ることができる
- 小説など、創造世界に生きる登場人物と一緒に人生を学ぶことができる
- 本を読むと、知らず知らずのうちに語彙力が増え、文章表現が豊かになる
- 純粋に本の中の世界(言葉や写真)に感動する

## 読書ノートのススメ - ごんな魅力が -

読書ノートとは、読んだ本の要点や感想を記録するためのノートです。と言うと、堅苦しくて、そんなことをして何の意味があるの?なんて思ってしまうかもしれません。しかし、本を読んだその時は、「これはスゴイ!使える!」と感じても、次の日にはもう忘れてしまう…なんてことはありませんか?せっかく時間をかけて本を読んでも読みっぱなしでは“もったいない”ですね。読書ノートは、この“もったいない”や“読んだら終わり”から卒業して、自分のスキルアップに活用できる画期的なアイテムなのです。また、読書ノートに記録し、読み返すことで、生涯にわたり役に立ち、読んだ本全てがあなたの財産になります。読書効果も倍増ですね。

- 読み返し、日々意識することで、アウトプットにつながる
- 読書という体験を目に見えろかたちで残しておくことができる
- 書くという行為で、自分の考えを整理できる
- 本で読んだことを、しっかりと自分の中に落としこむ



## 読書ノートを書くコツ - 書く内容に困ったら -

「読書感想文」のような、しっかりした文章、長文、気取った言葉でなくて構いません。自分がどう感じたか、どう思ったか、素直に書いてみましょう。



- 自分にとって大切なことや感動した点に注目
- 自分にとって役立つ知恵や言葉に注目
- 心に残る言葉、セリフに注目
- 何故そう思ったのか、感じたのか考えてみる

- 読書ノートを続けていくと…
- レポートの参考文献リストとして活用できる!
- 就職活動の自己PRや面接にも役立つ!

\* 読んだ本 \*      年 月 日

書名 \_\_\_\_\_

著者名 \_\_\_\_\_

出版社 \_\_\_\_\_

\* 感想メモ \*    [ 評価 ☆☆☆☆☆ ]

みほん

この読書ノートの用紙は、  
図書館に用意しています。  
ご利用ください。

(※9 cm×6 cm・原寸大です)

# 読書ノートキャンペーン



実施期間：2017年11月1日（水）～12月20日（水）  
提出場所：図書館カウンター（4号館2階）



## 通常

1冊分の読書ノートで 20pt  
20pt×4冊分=80pt のところ

読書ノートの対象になる本  
文芸書・実用書・学術専門書・文庫・新書

## キャンペーン

1冊分の読書ノートで 20pt  
20pt×4冊分=80pt につき

☀️ ボーナスポイント + 20pt  
☀️ おしゃれグッズ 1点

差し上げます！

読書ノートの対象になる本  
文芸書・実用書・学術専門書・文庫・新書  
に加え、マンガ・絵本・写真集・料理本

キャンペーン中は、通常の湘北ポイントに加えて、ボーナスポイント、おしゃれグッズを差し上げます。また、通常は対象外の本（マンガ・絵本・写真集・料理本）も読書ノートの対象となります。

## 読書ノート大賞 - めざせ！



わーい！  
わーい！



年度末には、図書館に寄せられた読書ノートの中から優秀作品を決める「読書ノート大賞」の選考を行います。受賞者には素敵な賞品を、また、提出者全員には参加賞を差し上げます。この“読書ノート大賞”を目指して、ふるってご参加ください！

## 連載 Relay Essay No.42

「センチメンタル・ライブラリー」 総務部 山崎 元

電車通勤から自動車通勤に変わり、電車の中での読書が無くなった今、読書時間ほとんどゼロの図書館委員1年生の私ではあるが、今回このエッセイの依頼を受け、“図書館”“読書”“雑誌”との付き合いを振り返ってみた。

図書館という施設は、子供の頃は、「しーっ」としながら本を読んだり調べたりする場所であった。

配架図書の裏表紙裏にある貸出カードを見ながら、「一番初め！」、「〇〇ちゃんの次！」に借りたとか一喜一憂していた。知らない言葉があれば、辞書で調べたり、先生に聞いたりしたものである。

読書の趣向もそのときの自分の状況や気持ちで変化している。SF、ハードボイルド、バイオレンス、推理小説、家族小説、時代小説など、没頭したジャンルも様々で、特定の作家の本を漁ったり、その中の登場人物の行動や言動に憧れてみたり、ほんの些細な文章が自身に影響を与え

たり。人には言えないちょっと恥ずかしいことも多少なりとも思い出す。

平均寿命半ばを既に過ぎている昭和世代の男にとって、本はあくまでも紙のもの（電子書籍は本ではない）であり、本や雑誌を間違っても足で踏んだりはずで、日本語なのに横書きの本を読むことに抵抗を感じるなど、いろいろなこだわりを持って“本”に接してきた。

現代の学生がどのように“本”と関わっているかは知る由もないが、その人なりの本との付き合い方を見つけ、何かのきっかけになればいいなと思っている。

最後にお勧め雑誌を。  
『昭和40年男』隔月で絶賛発売中である。（奇数月11日発売／クレタパブリッシング）

甘く切なく恥ずかしい時代を思い出したい人は、ぜひ、手に取ってほしい。